

令和5年(2023年)12月27日

長野県病害虫防除所

# 病害虫発生予察特殊報 第1号

病害虫：モモヒメヨコバイ

学名：*Singapora shinshana* (Matsumura)

対象作物：もも、うめ、すもも

## 1 発生確認経過と国内での発生状況

- (1) 令和5年(2023年)9月、長野県南信地域のもも・うめ生産園地において、葉にこれまでみられなかった吸汁痕が多数みられ(図1・図2)、葉裏には多数のヨコバイ類が寄生していた(図3)。
- (2) もも、うめに寄生しているヨコバイ類の成虫を採取し確認したところ、県内では未確認のモモヒメヨコバイであることが疑われた。
- (3) これらヨコバイ類の同定を農林水産省名古屋植物防疫所に依頼した結果、モモヒメヨコバイであることが明らかとなった。
- (4) 本種については、沖縄県での分布が確認されていたが、令和元年に和歌山県のウメで確認されて以降、徳島県、埼玉県、京都府、群馬県、愛知県、静岡県など近隣県を含む25都府県で発生が確認されている。

## 2 被害の様子

成虫及び幼虫が葉面に寄生し、吸汁加害する。吸汁された部分は脱色するため、葉全体が吸汁されることで白化する(図1・図2)。被害が著しいと早期落葉することがあり、樹勢や収量への影響が懸念される。被害樹の葉裏には、幼虫の脱皮痕が付着していることが多い(図3)。

なお、国内における発生事例によると、本種は成虫で越冬する可能性があるとされているが、県内での越冬の状況は不明である。

## 3 寄的植物と形態

- (1) 国内では、もも、すもも、うめ、あんず、おうとう等のバラ科果樹を加害することが報告されている。また、海外では、なし、りんご等でも被害報告がある。
- (2) 成虫の体長は3~3.5mmで、成虫の体色は黄緑色、複眼は黒く、頭頂部中央部に特徴的な黒点(図4)がある。
- (3) 若齢幼虫の体色は薄い黄色で、終齢幼虫になるにつれて成虫と同じ黄緑色になる。

#### 4 防除対策

- (1) うめなどの小粒核果類では、モモヒメヨコバイに対して農薬登録されている薬剤を使用する。なお、ももに対しては、本種に登録されている農薬はない。
- (2) 農薬を使用する際は、必ず農薬ラベルの記載事項を確認し使用する。
- (3) 本種の発生及び被害の早期発見に努め、被害葉が認められた場合は速やかに寄生葉を除去し、ほ場外へ持ち出し埋却するなど耕種的防除も併せて行う。



(図1) 葉の吸汁痕（白い斑点部分）



(図2) 葉の吸汁痕（白い斑点部分）



(図3) 葉裏に寄生している幼虫及び脱皮殻（白色）



(図4) 成虫（矢印：頭頂部の黒点）

(問合せ先)

担当 長野県病害虫防除所（中南信担当）  
山口、柳澤  
電話 0263-53-5642  
ファクシミリ 0263-54-4508  
電子メール bojo-y@pref.nagano.lg.jp